

しまねっ湖



クロゲンゴロウ *Cybister brevis*

体長20～25mmのやや大きなゲンゴロウのなかまです。水生植物が豊富なため池や浅い湿地などに生息しています。名前の通り、背面は一様に光沢のある黒褐色をしていますが、自然光のもとで観察すると、光の当たり方で緑色をおびた美しい黒色に見えます。

(桑原友春)



No. **77**
2023. Autumn

CONTENTS

特別展報告	2
ゴビウスのなかまたち	3
しまねの水辺紀行 / イベント報告	4

おさかな サバイバル ～身のまもり方 あれこれ～

7月12日～9月4日に、第54回特別展「おさかなサバイバル～身のまもり方あれこれ～」を開催しました。今回の特別展では、魚たちが生き残るために、どのように身を守っているのかをテーマに、敵から身を守る方法や厳しい環境の中で生き抜く方法について紹介しました。



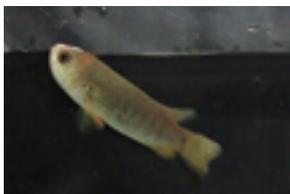
特別展会場

敵から身を守る方法では、全長5cmの小さな体を群れを作って大きく見せているイトヒキテンジクダイを紹介しました。また、海藻に擬態して身を守っているオビテンスモドキの幼魚や、透明な体で周囲に溶け込んで身を守っていると考えられているトランスルーセントグラスキャットなどを展示しました。



イトヒキテンジクダイ トランスルーセントグラスキャット

厳しい環境の中で生き抜く方法では、乾季になると生息地が干上がり、水中の酸素量が少なくなるため、新しい生息地を求めて陸上をはって移動するキノボリウオを紹介しました。また、吸盤状の腹びれを持ち、岩や貝殻にくっついて速い水流から身を守っているコンペイトウも展示しました。



キノボリウオ



コンペイトウ

さらに、コンペイトウの写真を撮ってインスタグラムに投稿すると、オリジナルグッズがあたるキャンペーンを開催しました。コンペイトウと一緒に写ったり、可愛い正面の写真をカメラに取めたりと、みなさん楽しんでキャンペーンに参加されていました。



コンペイトウ撮影スポット

毎週土、日、祝日にあそびっ湖まなびっ湖ひろばで開催している「飼育係とっておきの話」では、内容を特別展バージョンに変更し、特別展の生きものと常設展示の生きものの身の守り方について、クイズ形式で解説しました。

そのほか、関連イベントとして、「ゴビウスクエスト」と題して、館内全体をめぐる、いろいろな身の守り方をする6種類の生きものを見つけるスタンプラリーを行いました。



スタンプラリーの様子

今回の特別展が、自然界で生き残るために魚たちがどのような身の守り方をしているのかを知るきっかけになればうれしいです。

(原いつき)

展示協力：

とっとり賀露かっこ館、公益社団法人トンボと自然を考える会、四万十川学遊館あきついお、島根県水産技術センター（順不同）



ゴビウスのなかまたち

汽水のなかま ミズクラゲ

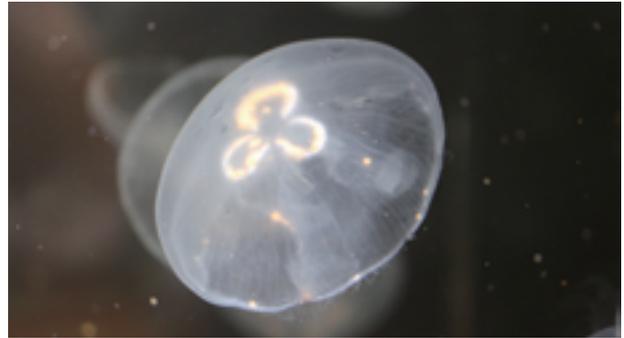
汽水のなかまたちのコーナーの一角で、日本海や中海に生息するクラゲを展示しています。その中のひとつ、ミズクラゲは中海でよく見かけるクラゲです。以前、漁師さんの船に乗せてもらった際、網いっぱいミズクラゲがかかっている光景を初めて見たときは驚きました。時々、大量に発生することがあり、多すぎると魚が網に入らなくなる原因にもなるので、漁師さんにとっては困った存在でもあるそうです。しかし、半透明の体で水槽内を漂う姿は、なんとも癒される光景で、ゴビウスでも人気のある生きもののひとつです。

ミズクラゲの上にあるクローバーのような模様は、生殖腺と胃です。通常4つありますが、中には3つしかないものや、5つ、6つあるものもいます。また、エサはアルテミアという動物プランクトンを与えるのですが、時間を少し置いてから見ると、胃の中がアルテミアのオレンジ色に染まっている様子を観察することができます。胃の数やその色の変化にもぜひ注目してみてください。

(松本千優)



アルテミアを食べる前



アルテミアを食べた後

淡水のなかま オヤニラミ

オヤニラミは、鳥根県では限られた河川に生息しています。近年、河川環境の悪化が原因で数が減っており、改訂しなねレッドデータブック2014では絶滅危惧I類に選定されています。

ゴビウスでは毎年、オヤニラミの繁殖に取り組んでいます。今年は、お客様にご覧いただける展示水槽での繁殖を目指し、水温調整やオスとメスの相性をみて、産卵するのを待ちました。そして7月初旬にようやく産卵を確認できました。オヤニラミは産卵後、オスが卵を守り、世話をする習性があります。しかし、今回のオスは途中で卵を守るのをやめてしまいました。そこで、展示水槽でふ化させることをあきらめ、キーパーヤードにある予備水槽で飼育スタッフが卵の管理を行うことにしました。流木に産み付けられた卵をそっと移動させ、弱いエアレーションを卵にあてることで新鮮な水を送り続けたところ、無事にふ化させ

ることができました。ふ化仔魚は栄養を蓄えた卵黄を持っているので、小さなオタマジャクシのような姿をしていまし



生まれて1ヶ月ほどのオヤニラミ

たが、1ヶ月ほどで成魚と同じ姿になり、ミジンコなどをよく食べるようになりました。

水槽内繁殖に取り組んでいると今回のようにオスが卵を守るのをやめてしまうことがあります。その時は、人が管理してふ化させるのですが、卵にカビが生えたり、未熟な状態でふ化するなど多くの課題があります。大きく育ったたくさん生きものの姿をお客様に見ていただけるように、これからもさまざまな工夫をして繁殖に取り組んでいきます。

(逢坂香織)

しまねの水辺紀行 ⑥4 水草探し

生きものの活動が活発になり、自然に親しむ機会が増える夏は、水草が増える時期です。そこで、いくつかのため池に水草を探しに行きました。あるため池では、島根県の限られた場所にのみ自生するセキシウモを確認できました。セキシウモはテープ状の平たく長い葉が特徴です。水中カメラで撮影してみたところ、セキシウモの群落を写真に収めることができ、うれしい気持ちになりました。



ため池のセキシウモ

また、別のため池には、ヒシの群落が水面を覆うほど生育していました。ヒシは水面に葉を浮かべる浮葉植物で、葉の形が菱型をしていることが名前の由来です。



ため池を覆うヒシ

さらにその池に流れ込む水路をのぞいてみると、マツモの群落がありました。マツモは、松の葉のように細かい葉が特徴です。丈夫な水草なので、展示水槽のレイアウト用の水草として使用しています。



水槽で育成したマツモ

まだ、見たことのない島根の水草を求めてこれからもいろいろな水辺に出かけたいと思います。

(森永和希)

イベント報告

～「閉館後のゴビウスへでかけよう！」～

7月29日(土)に、年間パスポート会員様限定イベントを開催しました。閉館後のゴビウスを特別に公開し、夜ならではの生きものの生態や行動を、特製の懐中電灯を片手にご覧いただきました。夜間仕様にライトアップした館内で、昼とは違った様子を楽しんでいただくことができました。



(大山淳子)

ゴビウスニュースレターしまねっ湖 No.77

発行日/2023年10月15日

発行/島根県立宍道湖自然館ゴビウス(管理運営:ホシザキグリーン財団)

〒691-0076 島根県出雲市園町1659-5

TEL 0853-63-7100 FAX 0853-63-7101

URL www.gobius.jp/ E-mail gobius@gobius.jp

■動物取扱業に関する表示

氏名または名称:公益財団法人ホシザキグリーン財団

事業所の名称:島根県立宍道湖自然館

動物取扱業の種別:展示

登録番号:第073102040号

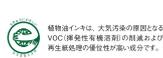
登録年月日:2007年5月17日

登録有効期限:2027年5月16日

取扱責任者:桑原友春



本誌は地球環境に優しい
植物画インキを使用して
おります。



画紙パルプ配合率90%再生紙を使用